■特別支援教育だより

いきいき

ＶＯＬ.２５
平成２２年３月２３日
いわき市総合教育ｾﾝﾀｰ

■　今年度のまとめにあたって

■　今年度も残すところ、あと僅かとなりました。今回のたよりが今年度の最終号となります。

「Knot-work（ノットワーク）　で母親を支える」

☆Knot：結び合う・繋がり合う

1　Knot-workとは

Knotとは、船の速さを測るための紐に、目盛りとして等間隔に入れた結び目のことです。

そして Knot-workとは、単なる情報交換だけでなく、相手のニーズに応じて、繋がり合いながら助け合っていくという意味が含まれます。

2　母親の悩み

①　子育て上の悩み

どの親も我が子のことは誰よりも理解していると思っています。しかし、実際に我が子の状態に目を向けると、「自分の育て方が悪かったのではないか」と子育てに自信をなくし、自分を責め、さらに誰にも打ち明けられず孤立してしまう場合があります。

②　家族内の考えのズレに対する悩み

母親は、間近に子どもを育てていて「この子は他の兄弟と何かが違う」とうすうす感じていても、父親に「心配のしすぎだ。大丈夫」と言われると、それ以上相談できなくなってしまったり、祖父母などに「母親の育て方が悪い。我が家系には障がい者はいない」、「父親も小さいときはそうだった」・・・・・と言われたりすると、家族内でも孤立してしまいます。

以上のようなストレスが母親に大きくかかってくると、そのイライラが子育てに影響し、ますます子どもが落ち着かなくなってしまうという悪循環になります。

3　母親支援の必要性

子どもにとって最大の教育環境は母親です。その母親を、いかに安定した状態で子育てに専念できるようにするかは、子どもの行動を改善する上で大きなカギとなります。

実際に、本センターに相談に来られている母親が、回を重ねるに従って穏やかな表情になるにつれて、一緒に来る子どもの行動が落ち着いてくると言うことがたくさんあります。

このような母親を支えるには、家族を始め、学校、関係機関が情報交換のみでなく、母親の立場になって、一本の紐に繋がれたKnot のように連動して支援していく必要があります。

そのためには、次のようなことがポイントとなります。

4　「Knot-workで母親を支える」ためのポイント

○　互いの立場を尊重し、共通理解を図りながら、それぞれの役割を明確にすること
○　仮に意見が食い違うことがあっても、決して決別することがないようにすること
○　診断名や検査結果のみの画一的な見方だけに陥らないようにすること

この中で学校の果たす役割は、

・　子どもの問題行動ばかりでなく良い所を見つけ母親を励ますこと
・　必要であれば母親と各関係機関を繋げていく紐の役割（コーディネート）をすること

これらのことによって、母親の負担感が減り、母親が安定した状態で子どもに接することができれば子どもも変わってくるはずです。

まず、教師は子どもをより深く理解し良さを発見できるプロでありたいものです。

「いきいき」についてご意見、ご質問があれば総合教育センター松﨑までご連絡ください。